

福島県PTA連合会会報
第9号_S54.10.01

第28回福島県PTA研究大会双葉大会

昭和54年10月21日(日)・22日(月)

於 双葉町・浪江町

ふたば PTA

福島県PTA連合会 53-5 久俊印刷所
 岩手県PTA連合会 菅野印刷所
 黒川郡PTA連合会 泉印刷所
 宇部市PTA連合会 熊野印刷所
 田部少年会 久俊印刷所
 岩手県PTA連合会 菅野印刷所
 黒川郡PTA連合会 泉印刷所
 宇部市PTA連合会 熊野印刷所
 発行人 菅野久俊
 印刷所 泉印刷所
 印刷 泉印刷所
 福島の発行所 福島市泉字熊野13-1
 電話 57-1071

「ふるさとを愛し
 豊かな人間性を育てるために
 子どもとわたし」

現代教育を考える

講師 評論家 俵 萌子氏

第二十八回福島県PTA研究大会双葉大会は、来る十月二十一日二十二日の二日間、双葉郡双葉町・浪江町を中心として開催される。本大会は、県PTAの本来の活動をあり方、今後の向上発展を研修する唯一の重要な大会である。ご承知のとおり双葉地方は、交通も不便であり小さな町ではあるが、子弟への教育、PTAの活動はことに盛んであり本大会開催による心意気も地方相くるみの協力で今までない感を深くしている。今や準備も整い会員皆様の参加

を待つばかりとなつておる。大会は「知・徳・体の調和をはかり、現代に強く生きる子どもを育てるための研修であり、ふるさとを愛する豊かな子どもを育てよう」という双葉地方ならではの「スローガンをかけ、第一日目は五分科会に分かれて研修し、第二日目は全体会と講演である。ことに講演者は、数少ない女子評論家の第一人者である俵萌子氏を招き、「子どもとわたし」現代の教育を考える立場から一時間半にわたり講演してい

ただくことになつておるが魅力ある内容が予想される。最後に双葉大会の成果のより高いことを祈る。

未来に生きる
 人間性豊かな
 子どもを育てる
 ために

各郡市連P
 研究会を開く

◆大沼郡連P

研究会 大会

大沼連合父母と教師の研究会大会(会長須田隆夫氏)は八月十七日日本郷一小において二九八名の会員が参加し、会津教育事務所指導課長浅沼恒昭先生、同社教主事坂内三郎先生を講師として「人間性豊かで、現代にたくましく生きる子どもを育てるために研修に参加しよう」の「スローガン」として開催された。

◆北会津地区連P

研究会 大会

北会津地区PTA研究会大会(会長小池常雄氏)は、八月十八日磐梯中に

◆東白川郡連P

研究会 大会

東白川郡連P研究会大会(会長佐藤庄平氏)は、八月二十六日矢祭中において、二〇三名の会員が参加し、県南教育事務所指導課長北村光男氏外五名を助言者とし、また茨城大学助教菊池龍三郎先生の「親の暮し方・子どもの育て方」の講演を聴取し熱心に討議された。

◆岩瀬地区連P

研究会 大会

「PTAは子どもたちの文化活動をどのように援助したらよいか」を大会主題とし、九月九日須賀川三小・三中において二四二名の会員が参加し、海外教育事情研究家近藤金弥先生・県中教育事務所社教主事吉田啓治先生を講師に招き、講演または助言により研修された。

◆田村郡連P

研究会 大会

田村郡連P研究会大会(会長先崎正長氏)は、九月五日船引公民館において二七三名の会員が参加し、「家庭教育の振興をはかるためPTAはどのようにしたらよいか」を主題とし、県教育庁義務教育課主幹宇田哲雄先生を助言者として、研究発表討議が熱心に行なわれた。

◆県連P事務局日誌

- 七月四日 於福島市民会館 常置委員会、理事会
- 七月十六日 於県青少年会館 会長・副会長・総務委員会合同会議
- 八月三日・四日 於福井市 全日P研究会 参加者九名
- 八月八日 於浪江町立東中学校 双葉大会実行委、県連P事務局打ち合わせ
- 八月二十八日 於県庁 県議会議員政党別陳情
- 出席者 会長 副会長 事務局 九月七日 於県青少年会館 調査 広報委員会
- 九月十二・十三・十四 於八戸市東北PTA大会 八戸大会 参加者二十五名
- 十月三日 於県青少年会館 会長・副会長・総務委員会

山 積極的な専門部活動

郡山市立桜小PTA

創立十七年目を迎え、桜小PTAの活動も「児童の健全な育成」をめざして着実に効果をあげている。本校PTAの特色は、非常に積極的・計画的であり、しかも全員が自主的に「自らの手」で仕事が行なわれることである。専門・学年委員会とも十分に話し合いから計画され、共通理解のもとに実践に移され、これが桜小教育のねらう「情操豊かな子どもの育成」



教養部活動「史跡めぐり」

をより促進させる根源にもなっている。昨年度から量より質という観点で行事を精選し活動しているが、各専門部の活動の概況は次のとおりである。

△広報▽ 会報発行年三回。記事集め、編集、割付け写真の掲載など、総べてが父兄の手によってなされている。特に学期二回の速報は、活動の様子を会員に的確・迅速に伝えられ、全体の活動をより円滑にしている。

△教養▽ 教育講演会は年一回中央より知名人を招き開催、学区外からの聴講者も多く、毎回六百名からの参加者がある。今までの講師は、小林謙作氏、五代利矢子氏、山田栄氏、上坂冬子氏、橋田寿賀子氏で、今年は木元教子氏に決っている。

史跡めぐりも計画的に実施され、四年目の今年は隣県にまで足を伸している。参加者も多く希望メ切りをするほどの大好

評である。

△厚生▽ 昨年度から親子のふれ合い、体力の増進、会員相互の親睦などを図るため「親子体育祭」を実施。親子まじえでの学級・学年対抗など充実した行事である。

△生活指導▽ 年間「一声運動」の展開や事故防止のための交通安全、自転車点検、危険箇所点検と表示など、一連の計画によって実施している。また「親子の話し合い」は異色の行事といえる。

△施設▽ 奉仕作業は「花と緑につつまれた学校」をめざし、親と子が共に労作するところが特色といえる。以上が各専門部の活動概況であるが、他にバザーが毎年開催されている。

「児童の健全な育成」のもとに自らの手で活動を続け、反省から実践へと、更に努力を続けていくのが現状である。

特色あるPTA活動

白河

子どもとともに伸びる PTAを目指して

大信村立大信中学校PTA

会員のひとりひとりがPTA活動を通して学習意欲の向上を計ることが今日ほど望まれる時代はない。多様な価値感の中で子どもらしさをどうするか、健全な子どもの成長のためにマスメディアにどう対処すべきか等々、この解決として会員の心の結びつきを強め、ともに考え、ともに学び、ともに協力するPTA、子どもとともに伸びるPTA、こんな願いをこめながら専門部活動を中心として事業を推進している。

△教養部▽ 学期一回の父兄一日入学日は、授業参観、給食の学習(米飯が導入されたので試食を兼ねて栄養師の先生のお話をきく)午後には講師の先生を囲んで好ましい家庭教育について、親のあり方についての学習、さらに学級ごとの懇談会、終りにひとりひとりと子どもと一緒に通話箋をいただく。(父兄に直接渡す学校の方針なのでいつもこの日の出席率は100%である)

会報発行は定期三回、外にPTAだより発行。親子球技大会の開催、夏季休業中を利用して、今日の経済事情から共稼ぎ家庭がほとんどなので



父兄の一日入学

親と子のふれあいを願う男子はソフト、女子はバレーの部落対抗、親の熱心なプレーに子どもも感激、終ったあとの部落ごとの茶話会は意義深いものがある。

△補導部▽ 年度当初に補導用の標語を会員から募集し、優秀な作品を印刷し、ステッカーを作成全家庭に配布、家庭に掲示して健全育成の一助としている。本年度は「朝のあいさつ家庭から」、「けじめある言動がつかえるあなたの人から」、「家だんらんテレビを消して」で、毎年好評を呼んでいる。又長期休業中を利用しての方部懇談会も映画を利用して話題を提起して、交通問題、非行防止など研修の充実をみている。

△環境整備部▽ 環境は人をつくる、年々充実される中で子どもにできない仕事を主として早期を利用して全員で積極的に美化活動をしている。

子どもの成長のためにやめるわけにはいかない大人としての責務を果すとき、子どもは健全に成長することであろう。



< 1 年 > 親子体操教室

この活発な専門部活動に勝るとも劣らない活動をしているのが学年部活動である。各学級代表四名、学年で計十六名の委員と学年の先生とで学年 P T A の役員会を構成し、P と T の積極的を協力に よって活動している。

学年活動の中心は学期一回の割で行う「親子〇〇教室」である。

これは、親と子が歌やフォークダンス、体操、球技などを一緒にすることによって「親と子の心のふれ合いを深めよう」という目的で実施されるもので、それぞれの学年 P T A が独自の計画を立て、体育館や校庭、野山で行っている。

五十四年度は次のよう な行事が計画されている。

- 〇教室
- この親子〇〇教室は、親、先生、児童が一緒になっ て計画し、運営し たり、また、他の 学年では、子ども たち全員が自分の 親に招待状を書い て参加してもらう ようにするなど、それぞ れの学年で関心を高め、 参加者を多くする工夫が なされている。そのため、 親たちの参加が非常によ

く、一、二年で 95% 以上 高学年でも 85~90% 以上 の父兄がいつも参加して いる。

親と子が一緒になって 汗を流す、歌を歌 う、フォークダン スをする、そして スポーツをする。 こうした親と子 が一緒に楽しむ活 動が親と子のうち とけ合う機会にな り、肌で接し合う 場になっている。

とかく、家庭や 学校で、できそう でなかなかできな いことの多い親子 のふれ合い、先生 とのふれ合いの場 がこうした学年部 活動をとおして設 けられているので ある。

親子〇〇教室の 夕食は特別においし いとか、親子で話 し合う機会が多く なったといった話 を父兄から聞くに つけ、三小 P T A の親子 〇〇教室は方法や内容を工夫しながら、これから 思われる。

三小 P T A の活動は、活動の母体がだれかによつて次の二つに分けて考 えることができる。

一、専門部活動

二、学年部活動

教養部、広報部、厚生 部、環境部、補導部の五 専門部の活動は全会員を 対象とする活動である。 二十六の学級の代表と担

この先生とで構成する部 会で企画し、運営してい る。活動は非常に活発で 父兄の手ですべて行っ ている。

この活発な専門部活動 に勝るとも劣らない活動 をしているのが学年部活 動である。各学級代表四 名、学年で計十六名の委 員と学年の先生とで学年 P T A の役員会を構成し、 P と T の積極的を協力に よって活動している。

- 〇教室
- この親子〇〇教室は、親、先生、児童が一緒になっ て計画し、運営し たり、また、他の 学年では、子ども たち全員が自分の 親に招待状を書い て参加してもらう ようにするなど、それぞ れの学年で関心を高め、 参加者を多くする工夫が なされている。そのため、 親たちの参加が非常によ

< 福 島 >

親と子の心のふれ合いを 深める学年部活動

福島市立福島第三小学校 P T A

- 〇一年の例
- 一学期 親子映画教室
- 二学期 親子体操教室
- 三学期 親子文集つく
- 〇三年の例
- 一学期 親子交通教室
- 二学期 親子ドッチポ
- 三学期 親子映画教室
- 〇五年の例
- 一学期 親子フットベ
- 二学期 親子野外活動
- 三学期 親子座談会

特 色 あ る P T A 活 動

汗を流す、歌を歌 う、フォークダン スをする、そして スポーツをする。 こうした親と子 が一緒に楽しむ活 動が親と子のうち とけ合う機会にな り、肌で接し合う 場になっている。

とかく、家庭や 学校で、できそう でなかなかできな いことの多い親子 のふれ合い、先生 とのふれ合いの場 がこうした学年部 活動をとおして設 けられているので ある。

親子〇〇教室の 夕食は特別においし いとか、親子で話 し合う機会が多く なったといった話 を父兄から聞くに つけ、三小 P T A の親子 〇〇教室は方法や内容を工夫しながら、これから 思われる。

< 若 松 >

活発な広報委員会の活動

会津若松市立日新小 P T A



編 集 会 議

日新小 P T A では、成 四十七年以降毎月発行を 人、広報、校外補導、環 境、厚生の四つの専門委 員からなり、それぞれ活 発な活動をすすめていま す。その中から、会員 相互のコミュニケーション のかなめになっている 広報委員会の活動のよう すを紹介いたします。

会報「日新」は、昭和

広報発行の概略につい てお知らせしますと、広 報委員会は各学級より選 出された委員と先生の三 十五名で構成され、委員 長、副委員を選び、取材 編集、校正、発行のサイ クルを毎月くり返します。 日程を追ってみると、 毎月二十日には編集会議 を開き、二十五日には取 材会議を、二十八日校正、 翌月一日発行といったぐ あいです。取材担当は学 年配当により交替で行っ ています。

毎号、それぞれメイ ンテーマを設定し、広く 会員の声を取りあげるな ど、編集にはいろいろと 苦心しています。

日新小 P T A では、成 四十七年以降毎月発行を 人、広報、校外補導、環 境、厚生の四つの専門委 員からなり、それぞれ活 発な活動をすすめていま す。その中から、会員 相互のコミュニケーション のかなめになっている 広報委員会の活動のよう すを紹介いたします。

会報「日新」は、昭和

広報発行の概略につい てお知らせしますと、広 報委員会は各学級より選 出された委員と先生の三 十五名で構成され、委員 長、副委員を選び、取材 編集、校正、発行のサイ クルを毎月くり返します。 日程を追ってみると、 毎月二十日には編集会議 を開き、二十五日には取 材会議を、二十八日校正、 翌月一日発行といったぐ あいです。取材担当は学 年配当により交替で行っ ています。

毎号、それぞれメイ ンテーマを設定し、広く 会員の声を取りあげるな ど、編集にはいろいろと 苦心しています。

日新小 P T A では、成 四十七年以降毎月発行を 人、広報、校外補導、環 境、厚生の四つの専門委 員からなり、それぞれ活 発な活動をすすめていま す。その中から、会員 相互のコミュニケーション のかなめになっている 広報委員会の活動のよう すを紹介いたします。

会報「日新」は、昭和

広報発行の概略につい てお知らせしますと、広 報委員会は各学級より選 出された委員と先生の三 十五名で構成され、委員 長、副委員を選び、取材 編集、校正、発行のサイ クルを毎月くり返します。 日程を追ってみると、 毎月二十日には編集会議 を開き、二十五日には取 材会議を、二十八日校正、 翌月一日発行といったぐ あいです。取材担当は学 年配当により交替で行っ ています。

毎号、それぞれメイ ンテーマを設定し、広く 会員の声を取りあげるな ど、編集にはいろいろと 苦心しています。

日P大会へ参加して

いわき市連P会長
鈴木喬二

PTAには日の浅い私ですが、井戸の蛙が少しでも大海に接すればの考えで昨年は山口大会に、今年には福井大会に参加してきました。

さすがに全国レベルでの大会ですから、大会運営は勿論のこと参加会員の教育に対する造詣の深さに驚ろくとともに、学ぶPTA実践するPTAの姿を目前にして大変に参考になった次第です。しかも私が参加した分科会においては、とかく大会に有りがちの綺麗ごとな論議が、実践をふまえた意見百出で徹底的に論ぜられたのが心に残ります。特に助言者のある先生が最後のまとめに、「皆さん世の中には政治家・芸術家或いは大学教授・お医者さんなどと尊敬に値する人々が多いけれども、ほんとは偉い人とはどういう人かというのではありませんか？」と問いかけましたところ、一瞬満場が水をうった如くしーんとなった中で、おもむろ

に「偉い人とは自分の事より他を優先し自己中心に考えない、常に他の人の中を先に考える人。自分の事しか考えない政治家・芸術家など少しも偉くはないんだ！」と声高に叫ばれたのが強く印象に残りました。私もまさに心に快哉を叫び涙の出る程じんときたのが思い出されます。以上は次第で私にとり大会参加は教育に対する蒙が啓けた事、日頃の信念如きものが確認裏打ちされた事など、私自身のPTAにおける指導理念が一層確立されました大変に感謝している次第。ところでPTAが指向する目的は、将来の世の中を担う青少年の健全育成である事は論を待ちません。しかし一口に青少年健全育成と云っても云うは易くこれ程難かしい問題はありません。教育関係者まさに官民こぞってこの問題と取り組んでい

るのが十数年来の世の流れです。各会長さん始め指導者の皆さんすべてこの問題で苦勞なされてい

るのが現状と思えます。ところがこれ程の努力にも拘らず、世の中は全く逆の方向に進んでいるように見受けられます。青少年健全育成と云えば非行対策が常識かもしれませぬ。ですからこれを避けるわけにはいきませんが、実は健全育成の大義の前にはこれは枝葉の問題ではないかと私は思っています。問題なのは大多数の青少年（少数の非行群を除く）が果して社会人として生活するための健全育成がされているかどうか問題ではないでしょうか。なぜならば非行化はしないで健全育成された筈の多数の青少年が社会に送り出され構成員となり今日の社会が構成され、そして自己中心の社会問題が蔓延しているのが現実の状況と思われるからです。教育こそ社会の基本であり、今こそ国民総反省の時と思えます。文部省の指導要領改訂は将来これを指向している事ですし、若い者はと口にす

る我々自身が家庭に社会にそして学校において、人間性豊かな教育とはなにかを真剣に考えねばならない時機と思えます。

最後にご主人を亡くされた会員が子どもに留守を頼み、後髪を引かれる思いで来たが、でも出席してほんとうに良かったと参加できた喜びを涙ながらに一言言葉に残る。

東北PTA
八戸大会へ
参加して

福島市立第二中学校
PTA会長
和智久子

第十一回東北PTA研究大会は九月十三・十四日の両日、漁業の街、工業の街、教育文化の街、八戸市で行われた。

母親会員の会場は、八戸市官庁街の商工会館四階会議室において午後一時参加者一六〇名（父親七名）の母親会員出席のもとに定刻開催された。

第六分科会「地域活動における母親会員の役割は、どうあればよいか」のテーマで青森県五所川原市立南小学校PTA、引続き本県喜多方市立第二中学校PTA会長星陽子氏が提言し

それぞれ地域社会環境や単Pの位置づけの相違こそあれ、実にすばらしい提言で、フロアーより質議応答、意見交換が活発にあったが期待したほど盛り上がりがなくチョッピリ残念。そこで共通する問題として、PTAの

大きな目的である児童・生徒の健全育成を図るうえにも◎親の生き方および子どもに対して親とはいったい何にか。●家庭における母親の役割の再検討。●子どもにとって親は生涯の先生である。◎地域社会におけるPTA活動のあり方。●母親父親としての役割分担による効果的な活動。◎PTA組織運営上の問題点の再検討。●家庭、学校、地域社会との連携。●PTAにおける母親の重要ポストへの積極的な進出。●子ども達をどのように育てたいかという意識の自覚をもつ運動の展開等！

今の子ども達は目標をもっていない又母親も子どもの心の中は知ってはいない、それでは子どもは救われないのではないだろうか、子と同じ目でも物を見てやる親心も大切で、親友を持ってない現代の子どもを身心共に強く育てるには、あたたかい親の理解と愛情が大切で、母親がすすんで健全育成のため、学校教育を理解し、婦人としての自覚を高め子どもを育てよう

とPTA、地域活動に参加する意義は大きい。又参加したくとも出来ない会員のために町長へ要請し、企業労組に、はたらきかけ地域ぐるみで教育有給休暇を獲得し、出席率を高めたPTA、地区PTAは、おとうさんがんばれと役割分担し地域に密着したコミュニティづくりと、父母と教師の信頼関係と連帯感が一層密化したこと等。

地域により異なる点もあるが、どの単Pも子どもの健全育成のため前進しようとする姿勢が実践活動の中で見受けられ、「物が榮えて、心がほろびる」という現代社会のひずみの中で、子どもの心を育てることはやはり母親であり、父親の権威であるろう。「子どもは親や先生の後姿を見て育つ」ということから親自身も健全にならなければと思えます。